

研究テーマ： Moodle を用いた「県立広島大学・英語 e ラーニングモデル」の構築	
研究代表者： 生命環境学部 生命科学科 教授 馬本 勉	連絡先：umamoto@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者： 人間文化学部 教授 船津 晶代， 准教授 西原 貴之 生命環境学部 准教授 ロナルド・スチュワート， 講師 片山 圭巳 保健福祉学部 教授 本岡 直子	
<b>【研究概要】</b> 本研究は， e ラーニング学習管理システムの一つ「ムードル (Moodle)」を活用し， 本学における「英語 e ラーニングモデル」の構築を目的とする。平成 22 年度 (1 年目) は， 英語の基礎技能である読解力と聴解力を高めるための学習方法を検討するとともに， 具体的な教材作成に着手し， 「英語 e ラーニングモデル・試作版」を作成した。平成 23 年度 (2 年目) は， 方法と内容に関する学習者からのフィードバックを反映させた「英語 e ラーニングモデル・改良版」を作成し， 授業および自学自習における積極的な利用を図った。	

## 1. 研究の背景

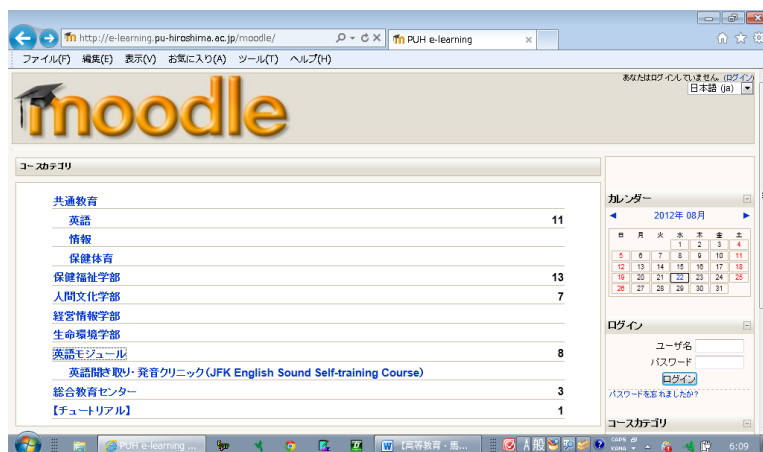
多くの学習時間を必要とする外国語の習得において， ICT 活用の効果が期待されている。本学学生の英語習熟度， 入学までの学習歴， 興味関心などは多様であり， 学部・学科によって英語のニーズも異なるため， 既成のソフトでは必ずしも授業目標にかなった教材を提供しているとは言えない。そこで我々は， 独自の方法と教材からなる「学習モデル」の構築に着手した。構築にあたっては， フリーウェアで拡張性の高い Moodle(ムードル)を導入することとした。Moodle は， ウェブ教材の作成， 自動フィードバック， 学習管理等の機能を備えており， コース登録者の学習履歴 (学習時間， 回数， 得点， 誤答など) に応じた個別指導が可能である。

## 2. 研究の目的

**英語 e ラーニングモデル** ⇒ (学習者の実態に応じた) **学習方法** + **教材**

**学習方法**： 比較的短時間で学習の完結する「コース」を選択し， 目的に応じて組み合わせる「モジュール学習」

**教材**： 語彙， 文法， 音声， リーディング



---

### 3. 成果の概要

昨年度に引き続き、Moodle 上で行う学習方法の提案、ならびに教材の開発という2本の柱を中心に、研究を実施した。各モジュールで重視した学習方法・教材開発の視点、および作成教材の概要は次の通りである。

#### 1) 音声

- ・音声、動画を用いた教材構成とし、口の形と動きを自ら確認しながら視聴する練習方法を取り入れた。
- ・英語音声聞き取り・発音練習コース (JFK) のコンテンツに、平成 22 年度の /r/-/l/ に加えて、子音は /s/-/sh/, 母音は /i:/-/I/-/e/ の聞き取り問題と発音練習動画・音声を作成した。
- ・アクセント、イントネーションなどのプロソディーについて、読み上げリストを作成し、英語母語話者の音声と動画収録を行った。
- ・/r/-/l/ のコンテンツを実際に庄原キャンパスおよび広島キャンパスで実施し、練習記録を取らせた。このことにより改善点が浮き上がってきた。

#### 2) 語彙

- ・多彩な問題作成機能を駆使し、多肢選択、組み合わせ、スペリングの確認といった小テスト形式を中心とした。
- ・国際文化学科 1 年次開講の CALL 演習という科目で、数表現を期末テストの範囲に含め、学生に自学自習させた。結果として、ほとんどの学生が数表現の基本的な内容をマスターすることができた (数表現に関する設問の正答率が高かった)。
- ・生命環境学部の 2 年生を対象とした教科書の内容に基づく語彙問題を作成した。(日本語と英単語との組み合わせ問題、日本語に相当する英単語のスペリングを書かせる問題)
- ・保健福祉学部の 2 年生を対象とした医学英単語の練習問題を作成した。学部の専門に関わる語彙力向上を狙うとともに、他の分野への応用も可能な語源学習法を導入した。

#### 3) 文法

- ・文法を不得手とする学習者は語順で躓くケースが多いことから、語順の定着を図る並べ替え、多肢選択式問題、文の書き換えを中心とした。
- ・生命環境学部 1 年生を対象とした授業において、特に英文法に苦手意識を持つ学生用に、文法の練習問題を作成した。文法知識を確かめる多肢選択問題や、文の書き換えによる定着を狙った問題を作成した。
- ・フリーソフト Hot Potatoes の並べ替え問題作成機能を利用した練習問題を作成した。学習者の解答時間を制限する機能を活用し、学習の動機づけを高める工夫を行った。

#### 4) リーディング

- ・多読を促す観点から、他のウェブサイトへのリンクを積極的に活用した。
- ・生命環境学部 2 年生を対象とした授業において、テキストの本文を補完する英文を他のウェブサイトから求め、本文のキーワードからのリンクをたどり、複眼的な読みを促す「ハイパー・リーディング」を導入した。この読み方は、学習者スキーマ活性化を意図したものであるが、理解しやすいという声が寄せられ、学習者に好評であった。